

この作品を製作・監督したリチャード・フランクリンは、1979年、雑誌「ナショナル・ジオグラフィック」でチンパンジーが初めて暴力を起こしたというジェーン・グッドオールのドキュメント記事を読んで「リンク」の脚本を思いついた。このグッドオール女史の研究によると、群れで行動するチンパンジーは自らの仲間を殺害、誘拐、さらに食べたりするという事実が明らかになった。さらに群れから外れ、単独行動をとるオス猿についても彼女は研究したが、外れ者の猿は、無情にもジャングルに追い詰められ、虐殺されてしまうということなのだ。チンパンジーは、一般的には温和な草食動物ということであったが、この定説を打ち破ったグッドオール女史の発表は、世界の人々に衝撃を与えたのである。類人猿というこの興味のある話にこそあれ、フランクリンは猿と人間との関係に話を発展させ、長年の活動を共にしているエベレット・デ・ロッシュといっしょに1980年、「リンク」の脚本を完成させたのである。

フランクリンはこの作品ができるまでの苦勞をこう語っている。

「2、3年くらいは回りの批判を買いましたよ。こういう映画を作りたいんだが——と言うと、たいてい僕をききがい扱いするんだ。猿の映画なんてくだらないってね。ところが「グレイストーク」が公開された時、皆、口をそろえて猿がいちばん印象的だったと言うんですよ。ま、あの映画の中の猿はめいぐるみでしたがね……。それからというもの、人をききがい扱いしていた連中が急に僕の風変わりなアイディアに興味を持ち始めましてね、おかしな話ですよ。最終的なこれだという脚本に仕上げるまで、何度も何度も書き直し、かなりの時間を費やしましたよ。」

今回の撮影でいちばん苦勞したのは、3匹の猿を撮ったハリウッドでも有数の動物トレーナーであるレイ・パーウィックであろう。とにかく猿をどうやって演技させるかということが問題であったのだが、ワン・カットの短い寝み重ねによって、それらしい演技をしているように見せたのである。特にチンパンジーは本質的に攻撃的で、自分の感情をかくそうとはしないため、いろいろなことがあった。リンク役をやったロックは、火を扱うシーンが多かったが、スタッフの予想を反して火を怖がるどころか、火の中へ突進しようとしたのである。



リチャード・フランクリン（監・督）

リチャード・フランクリンは、「マッド・マックス」のジョージ・ミラー、「刑事ジョン・ブック目撃者」のピーター・ウェアーと共にオーストラリア映画界を全世界に知らしめた一人である。彼は、オーストラリアのメルボルンで生まれ、地元のモナシ大学を出た後、1967年にアメリカへ移り、南カリフォルニア大学の映画学科で学ぶ。その時のクラスメートには、ジョージ・ルーカスやジョン・カーペンター、ロバート・ゼメキスやジョン・ミリアスがいた。その頃彼は、2人の有名な監督（ジョン・フォードとアルフレッド・ヒッチコック）の作品の回題上映等を行い、映画作家として学んだ。

1969年彼はオーストラリアに戻り、人気テレビシリーズ「Homicide」の助監督を務め、15本の短篇とドキュメンタリーを手がける。1975年に最初の劇場作品「The True Story Of Eskimo Nell」を手がけた。メルボルンの大学で講義をおこなった後、1979年に「パトリック」を撮る。この作品はアウエリアッツ映画祭グランプリを受賞した。翌80年、彼は「Road Games」で製作と監督を兼ねた。

フランクリンは、アメリカのユニバーサル映画に呼ばれ、ヒッチコック監督の古典的スリラーの傑作「サイコ」の続編である「サイコ2」の監督に抜擢された。この成功によって彼は、アメリカ映画界にスリラー映画作家としての地位を築いた。

他の作品「ビデオゲームを探せ」（84）未公開

レイ・パーウィック（動物物トレーナー）

サスペンス・スリラー「リンク」で全ての重要な動物シーンの操作をしたレイ・パーウィックは、ハリウッドの伝説的な動物トレーナーであり、今回の映画でリチャード・フランクリン監督が最初に選んだ人物である。ヒッチコック監督の「鳥」のトレーナーとして有名な彼だが、30年前に興味としてこうじたのが最初であった。彼はハリウッドのライターであり、人気テレビシリーズの「ラッシー」の数エピソードを書いたり、時には犬の調教も行っていた。彼の友人であるバート・ランカスターは、アカデミー賞受賞の作品「終身犯」（62）の鳥の調教を頼んだ。その作品を見たヒッチコック監督はすぐに電話をし、パーウィックに調教を頼んだ。そして、「鳥」の調教をしたことは、彼がいままで手がけた調教では挑戦的なものであり、もっとも記憶に残るものであった。

パーウィックは、ライターの仕事をあきらめ、映画での動物トレーナーの仕事を手がけることを決心した。彼はサンフランシスコ・バレイに本拠を置き、15人のトレーナーとカリフォルニアとフロリダに動物訓練所を設け、300もの調教された動物の「スター」をかかえている。パーウィックの犬のブーマーは、テレビ・シリーズ「Here's Boomer」や「Bandit」があるし、スティーブ・スピルバーグ製作の「グレムリン」や「エクスポラーズ」でも彼の動物が使用されていた。今回の作品「リンク」では、彼の3匹の猿（ロック、キャリー、ジェド）と共にアメリカからイギリスへ移動して、「鳥」よりも困難な仕事に臨んだ。イギリスで3ヶ月間の仕事に挑戦したことによって、彼はまた一つ不可能を可能にすることができることを証明した。

他作品 「猫」（69）、「かもめのジョナサン」（73）

リンク



スタッフ

製作・監督・・・リチャード・フランクリン	RICHARD FRANKLIN
脚本・・・・・・エベレット・デ・ロッシュ	EVERETT DE ROCHE
撮影・・・・・・マイク・モロイ	MIKE MOLLOY, BSC
編集・・・・・・アンドリュース・ロンドン	ANDREW LONDON
音楽・・・・・・ジェリー・ゴールドスミス	JERRY GOLDSMITH
猿トレーナー・・・レイ・パーウィック	RAY BERWICK

キャスト

ジューン・・・・・・エリザベス・シュー	ELISABETH SHUE
フィリップ博士・テレンス・スタンプ	TERENCE STAMP
デビッド・・・・・・スティーブ・バイナー	STEVEN PINNER
デニス・・・・・・リチャード・ガーネット	RICHARD GARNETT
トム・・・・・・デビッド・オハラ	DAVID O' HARA
バイレー・・・・・・ケビン・ロイド	KEVIN LLOYD

角澤章光

アボリアッツ映画祭の主催者であるリオネル・シュシアンは、ファンタスティック映画について、「ある瞬間から観客をふっと違った次元に誘ってくれるインパクトを持った作品」と語っている。その定義どおり、'86年度第14回アボリアッツ映画祭で話題を呼び、審査員特別賞を受賞した、まさしくファンタスティック映画の傑作がやってきた。この作品は、人間にもっとも近いチンパンジーを主人公に、人間対猿のまったく新しい感覚の映画である。過去に動物パニック映画は数多くあったが、大半はモンタージュ等でごまかしたり、SFX技術で作り上げた映画として登場させていた。しかし、この「リンク」は、本物のチンパンジーが信じられない演技で人間を圧倒した本物のファンタスティック・サスペンス・ムービーである。

イギリスに留学中のアメリカ人女子大生ジューンは、動物学を勉強している。彼女は、動物学を教えているフィリップ博士にほのかな憧れを持っていた。そして、夏休みの間、そのフィリップ博士の田舎の古い館で、彼の研究を手伝うことになった。彼女が館につくやいなや、不思議な人物に出会うのである。リンクという名の年老いたチンパンジーであった。彼女は、このチンパンジーに出会ったことによって、なにかいかな予感を覚えるのであった。そして何かが起ころうとしていた・・・・・・。

今回、この作品でリンクと対決する女子大生を演じることになったのは、「ベストキッド」でラルフ・マッチャオの恋人役を演じたエリザベス・シューが選ばれ、女性のか弱さの中に冷静かつ勇気を寓い立たせ、このリンクと壮絶なる闘いを繰り広げていく。また、このリンクを研究・飼育しているフィリップ博士役には、「コレクター」や「世にも怪奇な物語」で特異なマスクと異常な性格で人気を得ているテレンス・スタンプが演じている。また、今回の製作・監督をヒッチコック・マニアであり、ヒッチコック監督の傑作「サイコ」の続編である「サイコ2」で全世界に認められたオーストラリア映画界を代表とするリチャード・フランクリン監督が、ヒッチコックの「鳥」を思わせる演出で我々観客を恐怖の世界へ誘ってくれる。そして、この作品の中で最も重要であるチンパンジー達の演技指導に「鳥」で世界的に有名な動物トレーナーであるレイ・パーウィックが担当、チンパンジー達の人間以上の演技力に圧倒されてしまうほどの完璧さでこの作品をより面白いものに仕上げている。

上映時間 1時間43分 2832m ビスタサイズ ドルビーサウンド

東北新社＝松竹富士共同配給

キャノン・フィルム作品

ストーリー

暗闇の中に何かが潜んでいる。それは光に驚き、走りだす。そしてアパートによじのぼり、屋上にある鳩小屋の鳩と、それを狙っていた猫を瞬時に殺してしまう。床一面には、鳩の羽根が散らばり、その凶暴な野獣は姿を消す。

ここはイギリスのロンドン、アメリカ人の女子大生ジューン・チェイス（エリザベス・シュー）は、動物学を研究するために留学している。彼女は、この大学で著名な人類学者スティーブ・フィリップ教授（テレンス・スタンプ）の講義を受けている。彼女には、イギリス人のボーイフレンドのデビッドがいるが、密かにフィリップ教授に憧れを持っていた。そして運がいいことに、夏休みを利用してフィリップ教授の里離れた崖っぷちの家で、仕事を手伝うことになったのだ。ジューンが教授の館につくやいなや、執事として出てきた人間にびっくりしてしまった。それは人ではなく、執事の衣装を着た一匹の大きなチンパンジーであった。この猿はリンクという名の年老いたチンパンジーで、教授が引き取る前はサーカスで「炎の巨匠」として有名であり、また知能は人間以上のものを持っていた。リンクは、火を恐れず、葉巻も平気で吸ってしまうし、人間と同じことができるのだった。この館には、リンクの他に乱暴で短気なメス猿のブードゥーと、その息子でかわいくてわんぱくもの子猿のインプがいた。ジューンは教授の研究を手伝うが、教授のやり方は随分雑だったが、そのアイディアの奇抜さには目を見はるものがあった。ジューンは次第に猿達と心が通じ合うようになる。そしてある日、ジューンは教授がブードゥーを売る交渉をしているのを立ち聞きしてしまう。おまけに教授に逆らいはじめている年老いたリンクを処分したいというのだ。そして間もなく、フィリップ教授が忽然とその館から消えてしまったのだ！残されたジューンと3匹の猿たち、しかしブードゥーは、戸隠から死体で発見された。この館で何かが起ころうとしている。彼女は教授を探したが見つからない。そこで彼女は街まで教授を探しに出掛けようとする。しかし、途中で野犬に襲われ、危ないところをリンクに助けられたのである。そういったことがあったある日、動物のディーラーのバイレー（ケビン・ロイド）が訪れ、教授と約束してあったリンクとブードゥーを引き取りにやって来た。彼が言うのには、猿たちが今にジューンに危害を加えるだろうと言う。しかし、それを察したリンクは、暴れ出し、バイレーを追い返してしまう。ジューンはリンクの様子がだんだんおかしくなっていくのを感じ、何かとんでもない事が起きたのではないかと思いはじめる。リンクは執事のコスチュームを脱ぎ捨て、ジューンはいつのまにか捕虜になってしまった。地下道を通ってインプと脱出を計るジューン、しかし出口は崖につながって、しかもそこには惨殺された動物ディーラーの死体があった。ちょうどその時、ジューンのボーイフレンドのデビッド（スティーブ・バイナー）が友達デニス（リチャード・ガーネット）とトム（デビッド・オハラ）を連れてこの崖の上の館を訪ねて来た。彼はジューンが心配で様子を見に来たのだ。館に着いたデビッドたちは、館の中で何か異変が起こっていることに気がついた。しかし時すでに遅く、デニスとトムは殺されてしまった。ジューンとデビッドは部屋の中を逃げながら、なんとか助かる方法考えた。そしてフィリップ教授の類人猿の習性論を思い出した。部屋の中は破れたガス管からガスが充滿している。ジューンは生きる望みを賭けて、リンクに猿本来の動物的本能を再びよみがえらせようとするのだ。葉巻に火をつけるリンク。部屋の中は大爆発を起こし、館は火事になってしまう。リンクは館の展望台に登り、「火の巨匠」としての最後の喜びをあらわし、燃えたぎる火の中へ落ちてゆく・・・・・・。

次の日、燃え落ちた館を後にするジューンとデビッド。その途中、姿が見えなかったインプが彼らの前に姿を現す。猿はもういやだとデビッドが言うが、ジューンはまだ子供だからとインプを車に乗せ、出発する。しかし、インプが出て来た草原には、恐ろしい光景が映しだされていた・・・・・・。

エリザベス・シュー ELISABETH SHUE

この作品の中で、チンパンジーのリンクと対決するヒロインとして女子大生ジューンを演じたエリザベス・シューは、実生活でもコロンビア大学に在学する女子大生だ。

1964年生まれ。彼女が芸能界に入るきっかけとなったのは、16歳の時、ニュージャージー州の高校在学中にバーガー・キングの商業に出演、陽気で気の強いオール・アメリカン・ガールのキュートさに親しみやすい顔で全米のTV視聴者たちの話題となり、有名となった。カレッジで政治学と英語を勉強の間、彼女はABCTVと契約し、1983年、TV「エア・フォース」のパイロット版に出演した。その年の10月、84年の夏封切りの映画「ベストキッド」に主人公の恋人アリ役に選ばれた。そして今回この「リンク」に主役として選ばれ、困難な役を見事に演じた。そして、今や着実にアメリカ映画界のヤング・ブラットの一人として活躍している。



テレンス・スタンプ TERENCE STAMP

不思議な雰囲気を持った性格俳優として、イギリス映画界及び世界的なパイプリーナーの一人である。今回はリンクというチンパンジーと生活するフィリップ博士を演じたテレンス・スタンプは、1939年7月22日、ロンドンのスラム街地区と言われたステブニーで生まれ育った。セント・マーティンス美術学校に学んだが、15歳で学校を中退し、広告代理店に移めたが、満足できず、友人に勧められて演劇を学ぶためにウェバー・ダグラス・スクールで1年間基礎を学び、在学中に「オセロ」のイアゴ役を演じて認められた。59年にプロ俳優の仲間入りを果たし、当時話題のミュージカル「ホワイ・ザ・チキン」の舞台に立っていた時にピーター・ユスティノフの目にとり、彼が監督する「奴隷歌謡」の主役にいきなり抜擢した。この映画でアカデミー助演男優賞にノミネートされ、映画出演の依頼が殺到した。しかし、彼は俳優としての自分のイメージを固定化することを避けたかったため、しばらく演技活動を休んだのである。そして65年、ウィリアム・ワイラー監督の異色作「コレクター」に出演し、この演技はたちまち絶賛を集め、カンヌ映画祭の最優秀主演男優賞を受賞した。そして彼の演技者としてのイメージを変えた作品が、68年に出演したオムニバス映画「世にも怪奇な物語」で観客に異色のイメージをもたせたのである。最近では日本公開作品が少ないが、名優としての評価は、ヨーロッパで近年ますます高いのである。

他主演作 唇からナイフ（66）、遙か群衆を離れて（67）、血と怒りの河（68）
テオレマ（69）、スーパーマン（79）、スーパーマン2（81）

